

令和2年度「持続可能な社会づくり」に関する授業 2年生

9月4日（金） 「美しい海をこどもたちへ」残すために海洋ごみの問題に取り組み、様々な活動をされている方の話を聞き、私たちが暮らす地球の環境について考える機会としました。

講師の**小島 あずささん、吉野 美子さんが所属している一般社団法人JEAN**は30年前から海に流れてきたごみ・海岸に散らかったごみ・マイクロプラスチックなどが、環境を汚染し、地球や生き物を危機にさらしていることなどの問題に取り組んでいます。漂着・散乱ごみの調査集計や、クリーンアップキャンペーン、講演活動・広報活動などをおして、美しい海を取り戻し守る活動をされています。

◎講演の概要

私たちが使っているプラスチック製品は便利ですが、たとえば屋外に長く置かれているうちに劣化してボロボロになり、小さなかけらになって雨で流れていくことがあります。また、正しく収集所に出したつもりのごみ袋でも、破れてこぼれたごみは側溝に落ちて海に流れていくことがあります。魚や鳥がそれらを餌と間違えて飲み込んでしまうと、体内ですっと消化されません。海岸に散らかっているごみの7割は、陸域から流れてきたプラスチックごみで、分解されずに長く残っています。（ヤドカリがペットボトルキャップをかぶっている写真、死んでしまった鳥のお腹から出てきた歯ブラシなどの写真などが紹介されました。）

◎「あなたが環境のためにやっていることはありますか？」という問いに対する生徒の答えや意見

「エコバッグを使っています。」、「シャンプーは詰替え用を買うようにしています。」、「ペットボトルを使わずに水筒を持っています。」、「ストローやスプーンはもらわないようにしています。」などや、「ポイ捨ては罰金を取るようにすればいいと思います。」などの意見が出されました。

◎お話を聞いた後のワークシートへの取組

「海にあんなにたくさんのごみが集まっていたことに、びっくりしました。」、「私たちの出したものが、小さい命を危険にさらしていることを知りました。」、「プラスチックは便利だけど、ごみになると問題です。」などの感想、「これからはレジ袋をもらわないようにします。」、「本当に必要なものだけ使うようにします。」、「できるだけ再利用します。」、「ごみを正しく分別して、袋の口をしっかりと縛って捨てます。」など、学んだことを振り返り自分の考えをまとめていました。

★何も知らずに生活しているだけで、地球の環境、生物を傷付けている場合もあることに気づき、環境について関心をもって学ぼうとすることや、自分のこととして考えることの大切さを知ることができた貴重な機会でした。

